

☆ 高校2年生 修学旅行に行きました ☆

10月27日から30日まで、高校2年生が奈良・京都の修学旅行に行きました。日本の伝統や文化を感じただけでなく、自然の豊かさや人々の優しさにも触れた旅行となりました。中学・高校生活最後の宿泊行事は、一生の思い出となる4日間だったようです。

この記事では、修学旅行1日目と2日目を紹介します。



●○ 修学旅行1日目 ○●

明日香研修

東京や神奈川にはない、黄金色の田園や丘と緑の多さに驚きました。少し地元の方とお話したときに方言からやわらかい印象を受けたり、なんだか東京・神奈川とは時間の流れ方が違うな、と感じました。(A組 CH.さん)



石舞台古墳では、横穴式石室に入ってみて、天井が落ちてきそうだ、と思いました。古墳を生で見たことがなかったので、衝撃を受けました。飛鳥寺では、日本最古の仏像である本尊飛鳥大仏が、1400年間一歩も動かなかったということに驚きました。日本の最初の都造りは飛鳥から始まっているということを心に刻みたいです。(B組 SF.さん)

(B組 SF.さん)

座禅体験 (朝護孫子寺)

今まで祖先のことを深く考えることはあまりなかったけれど、座禅を通して、自分が関わってきた人々に感謝しなければならないと思った。(D組 YK.さん)

(D組 YK.さん)

体験の最後に「目標に向かって進むのは良いけれど、自分が今どこにいて、どのような状態なのかを知ることが大切」とおっしゃっていて、それがとても心に響きました。(D組 SK.さん)

(D組 SK.さん)



●○ 修学旅行2日目 ○●

法隆寺見学

法隆寺が一番楽しみにしていたお寺だった。救世観音、夢違観音、五重塔の鎌、柱がエンタシスになっている、邪鬼など、自分の目で見たと思っていたものがすべて見られた。

法隆寺の国宝館にあった百万塔にとっても感動した。去年の日本史の授業で習った称徳天皇という女性の天皇が、僧の道鏡に惚れ込んだ結果起きてしまった争いの供養で、二度と争いを起こさないようにという願いを込めて一つひとつ丁寧に作った小さい塔を実際に見ることができて、本当にうれしかった。
(E組 AUさん)

木造建築に魅力を感じるのには現代日本にも通じていると思いました。ひび割れたり穴が開いたりした柱には修復した後がみられて、朽ちていく素材をわざわざ使ってでも大型建造物をつくっていくのが日本の伝統文化なんだと思いました。
(C組 FKさん)



奈良公園班別自主研修

おすすめスポットは興福寺。資料集に載っていたもので印象に残っているものが多く展示されていた。阿修羅像の放つオーラがすばらしかった。阿修羅の魅力を実感してもらいたい。
(A組 RKさん)

東大寺は建物も大仏もとても大きく、迫力がありました。また、大仏の後ろの壁にも小さな大仏があり、数が多かったです。

初めて奈良公園に来ましたが、鹿が普通に道を歩いていて驚きました。途中からは鹿に慣れてしまい、鹿が座っていても全然気づかなかったです。また、鹿せんべいを持っている人への鹿の対応にも驚かされました。
(F組 A.W.さん)



平等院見学

平等院は思っていた以上に美しかったです。正面から見た時に逆光だったので、機会があれば朝方に見たいです。
(E組 N.T.さん)

平等院で26体の菩薩が展示してある場所が、いつまで見ても飽きないくらい様々で良かった。
(D組 KHさん)



能鑑賞（河村能舞台）

体験したということもあって、最前列で能を見ることができたのだが、義経が刀を抜いて切りかかってくるシーンは、本当に殺されると思って背すじがのびた。能の面には見る角度によって表情が変わるという特徴がある。それは『屋島』からもはっきりわかることで、義経が刀を抜き舞うシーンは生き生きと、全ては幻だったと気づいたシーンは暗く呆然としているように感じた。ささいな変化で相手の気持ちを汲む。今も昔もそれができる日本人だからこそ能がおもしろい。

(B組 T.N.さん)

600年前から同じ能面を使用しているということに驚きました。私たちは、住居、日用品、衣服や道具に至るまで最新モデルや最新技術を追求する傾向がある中で、600年という時を超えていまだに現役の能面があるということに感激しています。(河村さんの)「日本人は日本のことをあまり知らない」の一言に考えさせられるものがありました。技術のみならず文化面でも西洋が席卷する中、日本古来の文化を守っていく責任が私たちにはあると思います。

(D組 HK.さん)

